

令和3年度 学校評価（評価結果と課題）

1 自己評価結果等

本年度の重点目標		<p>①「課題探究」を軸としたカリキュラム・マネジメントを学校全体で推進する。</p> <p>②新しい評価法を確立するとともに、主体的・対話的で深い学びへの授業改善を推進する。</p> <p>③教育活動全体を通じて、生徒の主体性、公共心、思いやりの心を育成する。</p> <p>④自己の可能性を伸ばす力を育てるため、ICTを活用した教育を推進する。</p> <p>⑤生徒及び教職員の感染症予防策に万全を期すとともに、教職員の多忙化の解消に努める。</p>	
項目(担当)	重点目標	具体的方策	評価結果と課題
教務	<p>業務に関する内容の精選や手順の効率化を進める。</p> <p>新教育課程の開始に向け、本校教育課程の編成や評価方法の改善のための検討と周知を円滑に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各担当の業務内容について、一層の見直しを進め、教育効果と効率性の両面より、教務関係事項の望ましい体系やあり方を検討し実施する。 カリキュラム委員会等での審議、教科主任会等での情報共有、また職員全体への周知を円滑に進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 業務をマニュアル化しつつ記録を適切に保存することで、各業務が次年度以降も円滑に継続できるよう努めた。今後も業務全般については効率化を目指していく。 観点別評価について「評価の方法」「評定の算出」部分について提案することができた。今後は新校務支援システムの機能を鑑み、成績処理のあり方を検討したい。
総務	<p>奨学金に関し、本年も給付対象、手続き方法等が変わるものがある。それを確実に生徒に伝え、指導を適切に行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 主催する団体の求める提出書類、提出期限とそのために出願生徒、学校がすべきことを理解させ遺漏のないようにする。教育活動の中で得る生徒一人ひとりの情報を共有し、奨学金に関する助言・指導に役立てるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 図書情報部、学年会などの他分掌等にも協力を依頼し、年度当初の視覚が重視される行事(着任式・対面式へと続く始業式・離任式)で2学年入館・1学年リモート視聴による式典の運営を試みた。その後、他分掌主催の行事において、よりよい方式のリモート運営がなされたが、その端緒となったと思われる。
生徒指導	<p>「礼節を重んぜよ」を基盤とした行動の実践と、明和生としての帰属意識を高める。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日々の遅刻指導や身だしなみ指導を通して、節度ある行動(挨拶、身だしなみ、言葉遣い)や時間管理などの社会的資質を向上できるようにする。 情報モラルに関して、情報化の問題点を理解し、良識ある行動がとれるようにする。 生活指導強調週間で生徒の参加を募り、生徒主体の活動になるように企画し、生徒の主体性、公共心、思いやりの心を育成する一助とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 遅刻総数は昨年度よりも上回る状況である。心の問題を抱え遅刻してから教室に入る生徒がここ数年、増加している。 11月から3月まで、寒さ対策として私服(軽装)での登校が許可された。 実際にSNSでのトラブルはおきている。学年、担任から個別に情報収集し、適切かつ迅速に対応していく必要がある。 10月1日から自転車損害賠償責任保険の加入が義務化された。本校は学校単位で「全国高P連賠償責任制度」に加入している。また、正門付近の交通安全についてHR掲示し、朝の立ち番指導でも安全やマナーに留意させている。
進路	<p>高大接続改革にあたり、職員間で共通認識を持ち、学校全体で組織的で継続性のある進路指導を展開する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 低学年での客観的な生徒の理解度を測定するために、実力考査のデータの有効活用を図るとともに、「高校生のための学びの基礎診断」のあり方について積極的に提案する。 キャリア教育の充実に向けて、講演会や大学ガイダンス等を改善し、1、2年生における進路意識の高揚を図る。 各学年進路情報交換会の目的を明確化するとともに内容の充実を図り、最後まで第一志望を大切にす進路指導を展開する。 ポートフォリオを活用し調査書の記載内容の充実を図ることで、調査書様式変更への対応策を具体化していく。また、間違いのない調査書発行のために記載事項の確認を徹底する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「高校生のための学びの基礎診断」の運用にあたって様々な問題点等がでてきた。来年度に向けて実施方法について検討を進めていく必要がある。 キャリアガイダンスは予定通り実施でき、充実した内容であった。各種ガイダンスについては緊急事態宣言のため一部日程変更して行った。参加者は昨年より増え、今後もより多くの生徒が参加できる環境を整備していく。 進路情報交換会の目的を明確化して実施できた。第3学年については、学年会の協力を得て学年会の時間内で実施できた点は良かった。 ポートフォリオの記載内容について整理されたが、活用方法についてはまだまだ改善の余地が見られるため、継続して検討していく必要がある。
保健相談	<p>快適な学校環境を実現するとともに、生徒の心身の健康増進をはかる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 日々の清掃や点検活動を通し、自ら環境美化について考える姿勢を育成する。 学年との情報交換を密にすることにより、早期に連携して生徒対応ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> コロナ対策はある程度評価できるのではないと思われるが、生徒の意識高揚には引き続き留意していかないといけない。 AED講習会の代替として、クラス内で保健委員、安全委員を中心に企画を進めてもらっている。概ね良好ではないかと思われる。 コロナとの関連は不明だが、保健室に来室し、大きく情緒を崩す生徒が例年に比べ多数いる。関係教員とは情報共有に努めている。

生徒会	<p>自主自立の精神に基づき、全校生徒が主体的に活動する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・各行事のもつ意味についてあらためて考え、目的を意識して企画、運営する。 ・効率的な行事運営をし、種別委員会の負担を減らす。 ・東北被災地関連の企画を継続して行う。 ・初の体育館実施となる体育祭を成功させる ・文化祭の熱中症対策を講ずる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感染症対策から各行事を一から見直すことになり、結果として各行事の意味、目的について強く意識して企画、運営することができた。生徒は主体的に取り組み、特に健康面や感染対策などによく配慮し、充実した内容の行事を実施した。 ・感染症対策や実施内容の変更等で種別委員会の負担は増えたが、生徒は時間を守って活動することができた。 ・震災企画を10年続けることができた。岩手県の関連業者から謝意を込めて岩手県産米を贈与され、それをまた寄付のための商品として活用した。有意義な企画であった。 ・今年度は気温が低かったこともあるが、生徒が熱中症にならなかったので成功したと考える。
図書情報	<p>生徒及び教員の図書館使用を活性化する。</p> <p>校内ネットワーク環境の整備をすすめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒図書部の活動が主体的に行われるようにし、「図書館報」「ほいさっさ」などの内容を充実させる。 ・アクセスポイント、プリンタを設置し各執務室で円滑に校務が行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒図書部の活動が主体的に行われ、企画展も定期的実施することができた。 ・生徒にBYOD回線のID、パスワードを案内し、その利用法を示した。 ・生徒用タブレットパソコンの利用のルールを作成し、生徒に確認をした。 ・一人一台端末の活用について研究開発部とともにその課題や活用法について確認した。来年度も継続して散り組む。
研究開発	<p>課題探究と各学校設定科目やSSH事業のつながりをより一層強化する。</p> <p>SSH第Ⅱ期のまとめの段階として、研究開発の仮説の検証をすすめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・課題探究と各学校設定科目や各SSH事業のつながりを強化するために、授業の内容やSSH事業の内容の改善を図る。 ・各SSH事業の実施後に行うアンケート調査をもとに、第Ⅱ期の研究開発課題である『質の高い探究心』が涵養できたかどうかについて検証を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・第Ⅲ期の申請は無事行えた。様々な新たな取組が盛り込まれているので、それらが形骸化せず、なおかつ働き方改革に反することがない取組となるように、準備を進める必要がある。 ・分掌のMicrosoft Teamsのチームはよく活用されたと考えている。今後は、業務の効率化の視点での活用も考えていく。また、SSHの効果の検証については、今後実施する。
音楽	<p>品格のある音楽科生徒を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・正しい言葉遣い、美しい立ち居振る舞いができるよう指導する。 ・礼儀や常識をわきまえ、他者を思いやる心を育てる。 ・忍耐力やくじけな心育てる。 ・専攻実技と一般教科の学習の両立を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒はコロナ禍での演奏の可能性や、練習方法を考え、工夫して行動するようになってきた。 ・手洗いや消毒習慣は来年度以降も、より一層励行していきたい。 ・夏以降ワクチン接種の副反応で体調を崩す生徒が多くなったが、引き続き緊張感をもって練習にも学習にも取り組んでいきたい。
1年	<p>基本的な生活習慣を整えるとともに、基礎的な学力を身につけ、卒業後の進路を見据えて自己を律することができる生徒に育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守る、授業を重視して学習活動に取り組む、清掃をしっかり行うという高校生としての基本となる姿勢を身につけさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の変化に気づき、その情報を学年団で共有して、生徒がバランスのとれた健康な学校生活を送ることができるよう、さまざまな角度から援助することができた。 ・ほとんどの生徒が時間や期限を守り、授業や学校行事も真剣に取り組むことができた。課題提出・清掃などに関しては取組に個人差があり、指導が徹底できなかった。
2年	<p>中核学年として、何事にも挑戦して主体的に取り組む中で、気づきの心を持つ生徒を育てる。</p> <p>進路実現に向けて、高い目標を掲げ、さまざまなことに挑戦しながら主体的に解決できる生徒を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を守る、授業を大切に学習姿勢、部活動や行事、清掃などに積極的に取り組むといった姿勢を身に付けさせる。 ・自主自立を大切にしながら、集団生活において大切な他者への思いやり、気づきの心を持たせる。 ・類型登録に向けて、生徒が自己の進路について高い意識を持てるように指導する。挑戦させ、試行錯誤を経ながら粘り強く最後までやり遂げさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・修学旅行や学校祭などの諸行事において、感染予防に配慮しながら企画・運営できた。 ・文理選択の指導を通して、各自の進路について主体的に考える姿勢ができてきた。 ・計画性や時間の管理について、まだ十分にできない生徒も多く、心身の健康に問題を抱える生徒も見られるので、引き続き指導を続けたい。

3年	最高学年としての自覚と誇りを持たせ、何事にも失敗を恐れず、ねばり強く謙虚に挑戦し続ける精神を涵養する。 学校生活全ての場面で他の学年の範となり、さらにはリーダーシップに優れ、社会に貢献できる生徒を育てる。 生徒自身が自己の進路目標について主体的に考え、その実現に向けて計画的に取り組むことができるよう援助する。	・基本的な生活習慣を整え、規則正しい生活を維持させるだけでなく、常に礼儀と節度をわきまえ、場に応じた適切な行動をとることができるようにも指導する。 ・進路目標や学習状況についての情報を密に交換し、本校生徒の特性を考慮した進路指導と学習指導を行う。	・受験に向けての学習だけでなく、部活動、学校行事等にも主体的に取り組んだ。高い進路目標を持ち、粘り強く努力していた。 ・多くの生徒が受験生である前に高校生であることを自覚した学校生活を送っていた。 ・生徒個々の進路目標や不安を抱える生徒の情報を学年会等で情報共有した。担任を中心に、悩みを抱える生徒へは早期対応をした。今後もそのような生徒は増加することが予想されるので、さまざまなケースへの迅速な対応が課題となる。
いじめ防止基本方針に基づく取組	いじめの未然防止、早期発見を図る。	・生徒の不安や悩みを把握するため、年2回の「いじめ・迷惑行為調査」の他、個人面談、健康観察等を実施する。	・「いじめ・迷惑行為調査」や個人面談の他、教育相談・特別支援教育委員会などで、生徒の悩み等の把握を迅速に行った。
勤務時間の適正な管理及び長時間労働による健康障害防止に関する取組	勤務時間外従事時間の合計が月80時間を超過している教員の割合を5%以下にする。	・職員室の解錠時刻及び最終施錠時刻を適切に設定し、合理的な働き方を工夫する。 ・安全衛生委員会の定めた定時退校日を周知徹底する。	・月80時間超の教員の割合は5%以下であった。 ・平日は午後8時の職員室施錠が定着してきている。
総合評価		①第3期SSH事業を視野に入れ、令和4年度からの教育課程を改定した。 ②観点別学習状況評価を本格的に導入するための基本構想を定めた。 ③教員の平均従事時間は減少傾向にあるものの、多忙化の解消には課題が残る。	

2 学校関係者評価結果等

学校関係者評価を実施した主な評価項目	①今年度の学校評価における評価結果と課題 ②生活実態調査の分析 ③進路指導の現状 ④学校行事・部活動等の成果 ⑤SSH事業の展望 ⑥音楽科第70回記念定期演奏会への取組
自己評価結果について	SSH事業の成果として、文理融合を目指す指導が定着しつつある。
今後の改善方策について	①悩みを抱える生徒への支援の充実 ②ICTを活用した指導の充実 ③働き方改革の推進
その他（学校関係者評価委員から出された主な意見、要望）	①SSH事業を通して質の高い探究心を育ててほしい。 ②本校でのさまざまな活動は充実しており、その成果に「失敗」はなく、「成功か成長」しかないことを生徒に伝えてほしい。 ③環境問題、LGBTへの理解をはじめ、SDGsを意識した取組をすすめてほしい。
学校関係者評価委員会の構成及び評価時期	構成 …学校評議員及びPTA会長・副会長 評価時期…第1回 11月12日実施 第2回 まん延防止等重点措置のため書面による実施